

# 室町文化—南北朝文化・北山文化

南北朝の動乱を通じて公家の権威が失われ、新興の武家が文化的活動の舞台を整えるようになった。古代以来、常に文化的活動の中心にいたのは公家であったが、室町時代には公家に代わって武家が台頭した。また、中国の文化受容の中心となった禅僧は、禅の精神を建築・文学・絵画で表現して、特異な文化を生み出した。

## ○ 広義の室町文化

### ● 3つの時期区分

#### ① 南北朝文化

…時期は主に南北朝時代にあたり、動乱の緊張感を背景に歴史書や軍記物語が盛んに作られた文化

#### ②<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ 文化

…時期は 14 世紀末から 15 世紀前半にあたり、公家・武家の文化融合が進み、禅宗など中国の文化も受けた文化

◇名称は 3代将軍<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ が京都（1）に山荘を建てたことに由来し、この山荘の一部が<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_

#### ③<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ 文化

…時期は応仁の乱中から乱後にあたり、禅の精神に基づく簡素さ（侘<sup>わび</sup>）や、言葉で表せない深くほのかな余韻（幽玄）を特徴とする文化

◇名称は 8代将軍<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ が京都（4）に山荘を建てたことに由来し、この山荘の一部が<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_



図2 慈照寺銀閣

## ○ 南北朝文化

### ● 歴史書と軍記物語

#### ①『<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_』

…「四鏡」の1つで、公家の立場で源平の争乱頃から鎌倉時代末期を記述

#### ②『<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_』

…南朝の重臣<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ が常陸国で執筆し、南朝の正統性を記述

#### ③『<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_』

…室町幕府の立場で、執権政治から南北朝の動乱を記述

#### ④『<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_』

…後醍醐天皇の登場から南北朝の動乱を3部構成で記述

◇(9) …幼少の天皇のために、有職故実の書『<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_』も執筆



北畠親房（1293～1354年）

楠木正成らの死後、南朝の中心となって北朝に抵抗し、常陸小田城で『神皇正統記』を著した。南朝が正当な皇統として君臨することを夢見ながら生涯を終えた。

### ● 諸文化の流行

田楽・猿楽の演劇形態<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_、和歌の上句と下句を別の者が作る<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_、

多人数で茶を楽しむ茶寄合で茶の味を飲み分ける闘茶が流行した。

⇒<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ は『<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_』を編纂して(14)を和歌と対等の地位にし、

また、(15)の規則書『<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_』を著した。

◇「ばさら」と呼ばれる、人目をひく珍奇で派手で派手な服装・行動を好む風潮も流行



図3 二条良基

# ○北山文化

## ●建築

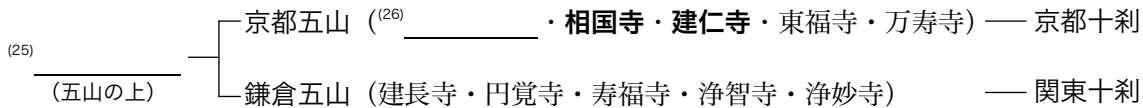
代表例は、3代将軍<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ が建立した<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ である。  
 ⇒(19)の建築様式は、伝統的な<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ と<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ の折衷である。  
 ◇その他、禅の精神を表現した庭園も造園

## ●仏教

初代将軍<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ が<sup>(23)</sup> \_\_\_\_\_ を篤く帰依したため、  
 室町幕府は鎌倉幕府の方針を受け継ぎ、臨済宗を保護した。  
 →幕府は臨済宗の寺院を管理するため、<sup>(24)</sup> \_\_\_\_\_ という  
 寺院の格付けを定めていった。  
 ⇒(24)は足利義満の時代にほぼ完成した。  
 ◇(24)…南宋の官寺の制度に倣ったもの  
 ◇僧録…五山・十刹の人事などを司る管理職で、初代は春屋妙葩<sup>しゅんおくみょうは</sup>



夢窓疎石 (1275~1351年)  
 臨済宗の僧。後醍醐天皇・足利尊氏・  
 足利直義の帰依を受けた。



## ●文学

五山の僧は、漢詩文や漢文学研究の書物<sup>(27)</sup> \_\_\_\_\_ を書いた。  
 →出版活動も展開され、木版印刷されたものを<sup>(28)</sup> \_\_\_\_\_ と呼ぶ。  
 ⇒(27)の最盛期には、二大権威<sup>(29)</sup> \_\_\_\_\_ ・<sup>(30)</sup> \_\_\_\_\_ が活躍した。



図4 『瓢鮎図』

## ●絵画

禅の精神を具現化した絵として、<sup>(31)</sup> \_\_\_\_\_ が描かれた。  
 ⇒東福寺の<sup>(32)</sup> \_\_\_\_\_、相国寺の<sup>(33)</sup> \_\_\_\_\_ (代表作：『<sup>(34)</sup> \_\_\_\_\_』)・  
 周文 (代表作：『寒山拾得図』) など五山の僧に基礎が築かれた。

## ●歴史書と軍記物語

『難太平記』  
 …今川了俊が、『太平記』の記述訂正を意図して記述

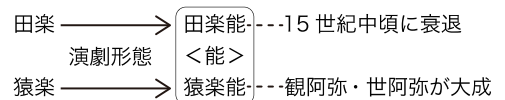


図5 田楽能と猿楽能

## ●能

寺社の保護を受けて能を演ずる技術集団(座)が現れた。  
 ⇒なかでも、観世座・金剛座・金春座・宝生座は、  
 大和猿楽四座と総称され、興福寺に保護されて活躍した。  
 ↓  
 観世座の<sup>(35)</sup> \_\_\_\_\_ ・<sup>(36)</sup> \_\_\_\_\_ 父子は、  
 足利義満の保護を受け、<sup>(37)</sup> \_\_\_\_\_ を大成した。  
 ⇒また、(36)は能の理論書『<sup>(38)</sup> \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_)』を著した。



図6 能(能楽)